

# 嶋満神社便り

平成二十八年五月号（第十九号）

発行 嶋満神社奉賛会

初めにこの度の熊本大地震の被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

## 神は怒るのか？

このような大災害が起こるたびに私たちは「神も仏もないものか」などとよく言います。確かに神様も仏様も、人間にひどい試練を与えられるのです。特に私がいつも思うのは「神は怒るのか？」あるいは、「神はなぜ怒るのか？」ということです。

多くの神社の由来を読むと「創建」のことを「鎮座」と言っています。「荒ぶる」神様に「鎮まつて」「お座り」いただいたということでしょうか。ではなぜ、神様は荒ぶるのでしょうか？

神様は仏様のように人間の救済のためにおられるのではないのでしょうか？

日本の神様は西洋の一神教の神と違って「八百万：やおよろず」というほど存在し、完全無欠の神ではなく、祟りや災いを起こす、恐ろしい存在でもあります。人間が天の恵みに感謝することを怠れば災いをもたらします。その怒りを鎮めるために供物を捧げ、祭祀を行なってきました。（神道の心を伝える：幣立神宮関連HPより抜粋編集）

つまり人間の力を越えた、人間の力ではどうすることもできない大きなものに対する「畏れ」、「尊敬」の対象として「神様」というものを人間は心に持ち続けてきたのでしょうか。



幣立神宮

今回の熊本大地震や五年前の東日本大震災が、人間に対する神罰だなどとは思いたくもありません。むしろこういった自然の驚異に対して謙虚になるべしとの心の持ちように関する一つの大きな答えが「神」という存在なのだと思います。持ちです。

一方、映画「大魔神」に登場するのは悪人を懲らしめるために登場する神で、こちらは人間の心の中の、いや私たちが心に常に持っているかもしれない「悪」に対する「裏返し」の存在といったものかもしれません。

いずれにしても「神」とは自分ではどうすることもできないことを、何かにすがって解決したいという、私たち日本人の切ない思いから長い歴史の中で醸成されてきた存在なのではないでしょうか。そしてその解決には拝殿にぬかずき、拍手を打ってこうべを垂れ、素直な心になることが必要なのではないでしょうか。

さて先に引用した記事と写真にある「幣立神宮」（へいたてじんぐう）は、もともとは阿蘇の火山神をまつり、高天原（たかまがはら）神話発祥の地とされています。

その成り立ちは、人間が仲良くしないと宇宙にひびが入るのを心配された神様がこの地に降臨されたということです。

場所は熊本、今回の地震の震源のほど近くにあります。これは決して偶然ではなく、伊勢神宮、諏訪大社、石鎚山、高野山など他の日本の有名神社と同じく日本列島を縦断する「中央構造線」上にあります。つまり断層の上には地球の磁場を打ち消す神秘的な力が働くというのです。今の言葉で言えば「パワースポット」でしょうか。

人もいます。

太古から自然とともに生きてきた私たち日本人の祖先の心が少しわかるような気がします。

最後に今回の大地震の災害に遭われた皆様の一日も早い復興を心からお祈りして、終わりたいします。